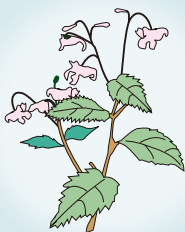


元気アップ 主体会

2016. 11 Vol.41

主体会病院で新しい透析の機械が導入されました



も く じ

主体会病院で新しい透析の機械が導入されました	1
特集 主体会病院 透析新機械導入	2
特集 小山田記念温泉病院 小児リハビリ部門	3
39thサマーセミナー	4
健康への窓	5

平成28年春の勲章受章	4~5
施設行事	6~7
パルズメディカルサポート	6
民間社会福祉施設職員等海外研修・調査に参加して	7
部署紹介 主体会病院透析センター	8
元気アップコーナー・編集後記	8

当センターは昭和50年(1975)9月に川村病院附属診療所として開院以来、患者様増加に伴い増床を重ねてきました。平成17年(2005)11月、主体会病院の5階に透析装置69台を設備。安全・安心・快適を基本コンセプトにスペースと機能を持たせ、高齢化や難治合併症に対応した最新機器の導入と設計を施しました。

それから10年が経過し、平成28年7月に透析装置、透析液供給装置、逆浸透精製水製造システム(RO装置)を最新機種に変更しました。今回導入した透析装置は血液透析(HD)だけではなく、血液透析濾過(on-line HDF)も可能になりました。また、持続的に血液量を測定できるBV計が全台に搭載されており、透析中の血圧コントロールが容易となりました。透析液供給装置は2台導入した事で2種類の透析液が使用可能となり、患者様個々の状態に合わせた治療が行えるようになりました。RO装置では、最新システムに加え熱水消毒が可能となり、透析液も今まで以上に清浄化され、超純粋な透析液を作成できるようになりました。これらの装置は、今後増え続けるであろう透析患者様の高齢化や長期化、また難治合併症に対し、治療効果の向上が期待できると考えています。



最新透析装置(DCS-100NX)

透析装置導入に併せて透析通信システムを新しく導入し10月より稼働しました。このシステムは透析装置をコンピューターで一元管理できることから、透析スケジュールやベッドコントロール、また電子カルテとの連携から患者状態の把握、注射等の入力が容易となりました。

患者様に安全で安心な治療を受けていただけるよう、今まで以上に機器の管理に努めさせていただきます。

(主体会病院 臨床工学技士 阪田修平)

透析液供給装置



逆浸透精製水製造システム (RO装置)

透析液溶解装置



透析センター

小山田記念温泉病院の小児リハビリ部門では、平成28年4月から月2回(隔週)土曜日の午後も小児リハビリを開始しました。

その理由としては、一つ目に土曜日午後のリハビリ希望が多かったこと、二つ目に三重県では土曜日の授業が開始となり、お子さんやご家庭でのライフスタイルにあわせ、少しでもスムーズにご予約いただけるようにするためです。

これからも適切な時期と頻度でお子さんの成長を支援する努力をしてまいります。(尚、毎週土曜日の診察は午前のみ、予約制です。)

(小山田記念温泉病院 リハビリテーションセンター 小児リハビリ部門 主任 中川雅弘)

三重県知事来院! 小児リハビリ現状視察

当院での小児リハビリの現状視察のため、9月10日に鈴木英敬三重県知事がご来院されました。通院中のお子さんたちと一緒に、パラリンピック正式種目である「ボッチャ」も体験していただきました。

今回の知事訪問は、小児リハビリテーション科部長の登勉先生の要望に応じていただいたもので、その背景には障がい児の保護者が抱えている様々な思いを伝えることも大きな目的としてありました。現在、三重県内における障がい児・者への支援体制はまだまだ十分とは言えない状況であり、障がい児の保護者は多くの不安や悩みを抱えています。それらは、医療のみで対応しきれるものではなく、行政上の課題も多いと感じています。そのため、知事との懇談会を設け、保護者の方々の思いを直接知事に伝えていただきました。例えば、就学や就労に対する不安です。現状では、住み慣れた地域の学校に通うことが難しかったり、選択できる仕事環境も限られており、もっと子どもに合わせて自由に選択できるような社会になってほしいという思いがあります。また、将来の自立に向けた社会資源活用への不安があります。親亡きあと、施設への入所ができるのかどうか、子どもだけで生活していくことができるのだろうかといった不安の声が上がっていました。



知事は、保護者の訴えにしっかりと耳を傾けられ、各関係機関との連携・相談を進めていきたいと仰っていました。

全ての問題をすぐに解決していくことは難しいですが、障がいのあるお子さんやその保護者が抱える不安を少しでも解消するために、行政や地域への働きかけも重要であると考えております。

(小山田記念温泉病院 リハビリテーションセンター
小児リハビリ部門 主任補佐 高山絵美子)

テーマ

「医療・介護・福祉の連携を考える」
地域住民のウェルビーイングのために

39th サマーセミナー

Summer Seminar

2016. 7. 2 四日市市文化会館 第1ホール

タイムスケジュール

13:30	開 場
14:00	開 会 開会挨拶並びに 基調報告 I 「青山里会の現況と今後の課題」 社会福祉法人青山里会 理事長 川村 陽一
14:25	基調報告 II 「主体会の現況と今後の課題」 医療法人社団主体会 理事長 川村 直人
14:40	現場からの報告 I 「改正・社会福祉法から見る法人組織の体制強化と地域における公益的取り組み」 社会福祉法人青山里会 介護総合センターかんざき 施設長 芦田 俊男
14:55	現場からの報告 II 「子どもと家庭を地域で支えるため、私たちが出来ること」 医療法人社団主体会 主体会病院 在宅医療福祉部 主任 木股 徳充
15:10	休 憩
15:30	特別講演 「医療と介護一体的改革と地域づくり」 兵庫県立大学大学院経営研究科 マネジメント専攻 小山 秀夫 教授
16:45	閉会挨拶 医療法人社団主体会 理事長 川村 直人



叙勲のご挨拶

みえ川村老健 武藤康正

平成28年度春の叙勲に際し私は双光章を受章いたしました。光栄に存じております。

一般的に勲章には旭日章と瑞宝章があります。旭日章は「国家または公共に対し、勲績あった方」に瑞宝章は「国家または公共に対し、積年の功労あった方」に与えられます。この様に両者の間には選考基準において幾らかの差があります。

昭和50年私は当地にて耳鼻咽喉科を開業、まもなく昭和53年4月から四日市医師会理事に選任され、続いて副会長、会長と連続22年間医師会の仕事をやって参りました。この間、特に会長時代には多くの各部門担当理事先生方のご協力により幾つもの事業を成し遂げることが出来ました。今回の受章も私を支えてくださった多くの方々あってのことと感謝しております。受章は「今までご苦勞であった、今後も頑張れよ」と言うことと受け止め耳鼻咽喉科医師とみえ川村老健医師と二足の草鞋で頑張ります。最後に受章選考対象となったと思われる医師会事業を列記します。



- 1) 学校保健業務 昭和51年より現在まで耳鼻咽喉科専門医として市内複数校の校医を務めた。
- 2) 救急医療体制の確立 三重県下では初めて四日市市応急診療所に耳鼻咽喉科専門医の参画を呼びかけ平成8年4月から実施した。
- 3) 訪問看護ステーションの設立 平成5年4月からスタートした訪問看護制度を受けて四日市医師会内に訪問看護ステーションを設立
- 4) 看護師養成に関すること 看護学校講師を務める傍ら学校長時代、時代の要請に応じるため准看護師養成機関から正看護師養成専門学校に改編。



効果的な点眼方法について

小山田記念温泉病院 眼科
宇治 幸隆

医学の進歩によって、多くのすぐれた治療薬が開発されてきました。眼科領域でも、薬物治療の発展はめざましく、特に点眼薬は最も多くの患者さんに使われ、その種類も驚くほど増えています。例えば、緑内障の点眼薬は1970年代わずか2種類でしたが、今や10種類以上になり、そのジェネリック薬品に至っては、私たち眼科医もすべてを把握するのが困難なぐらい多く発売されています。

多くの優れた点眼薬が使えるようになったのですが、正しく点眼され、効果的に目に届かなければ意味がありません。そこで、点眼を有効に働かせるためにはどのようにすればよいかを解説したいと思います。

点眼剤は直射日光が当たらず、なるべく涼しいところ

に保管すること、冷所保管の指示があれば冷蔵庫に入れてください。封を切れれば、たとえ残っていても1か月過ぎれば捨ててください。しっかりふたをしても、徐々に容器内が汚れてくるからです。また幼児などの手が届きにくいところに保管してください。誤って飲んだりする恐れがあるからです。

次に点眼時の注意ですが、まず手を洗ってください。下まぶたを軽く引き、1、2滴、まぶたと結膜(白目)の間に点眼します。容器の先がまぶたやまつ毛に触れないように注意します。点眼後はできれば5分間パチパチまばたきをしないで、まぶたを閉じてください。まばたきによって目に長く留まらないからです。また鼻の方に早く流れていかなないように、目頭を軽く押さえるのも効果的です。

一度に2種類以上の点眼をするときは、点眼間隔を5分間以上あけてください。5分以内だと最初の点眼薬が洗い流され、効果が減少することが実験で証明されています。さらに用法、用量を守ってください。多く点眼すればよいものではありません。目薬ぐらいと思われるのですが、薬によっては目の角膜障害やアレルギーを起こし、全身状態に影響を及ぼすこともあります。

最初に述べましたように、多くの種類の点眼薬がありますので、自分の点眼を間違えないこと、そして水虫の治療薬のように、容器が似たものもありますので混同しないようにしてください。特に見えにくい方は家族の協力を得て、確実に点眼するようにしてください。

叙勲のご挨拶 主体会病院 小児リハビリテーション科 櫻井 實

この度、私は平成28年度の春の叙勲の荣誉に与り、皇居に参上いたしました。私に賜りました勲章は、「瑞宝中綬章」と呼ばれ、文部省管轄下の国公立大学において、教育や研究に長年携わった者に与えられる勲章です。

晴天に恵まれた5月12日、文部省関係の各種の勲章受賞者とその家族1,400名が、東京国立劇場に参集して、午前11時より、文部大臣主管による春の叙勲・勲章伝達式が行われました。国歌斉唱の後、文部大臣の挨拶があり、受賞代表者が式段に上り、勲章が大臣より伝達授与されました。式後、文部省職員から勲章が手渡され、受賞者全員が栄えある勲章を胸に着け、バス35台に分乗して新緑の皇居に向かいました。そして、午後3時、待望の天皇陛下の拝謁に浴することができました。私たち夫婦にとって、この叙勲は生涯に二度とない経験でありましたが、郷里や大学の同胞からの反響は予期した以上に大きく、身に余る光栄とはこのことだと痛感いたしました。また、現在の職場である主体会病院や小山田温泉記念病院、川村老健などのたくさんの方々からも祝福を頂き、感謝の気持ちで一杯です。天皇陛下の仰せられたごとく、今後とも、健康に気をつけ、社会に貢献させていただけるよう一層の努力を致す積ります。重ねて日ごろのご厚情に感謝申し上げます。



施設行事

ディ夏祭り 8月1日(月)

盆踊り 7月28日(木)

みえ川村老健

ディの夏祭り開催。
こひつじ保育所の子どもたちも招待し楽しい時間をすごしました。
準備は利用者の皆さんがしてくれました。



いつになく暑さが厳しく最高の盆踊り日和でした。
今年も四日市のゆるキャラであるこにゅうどうくんの参加により大盛り上がり。



女子ラグビーチーム PEARLS パールズ メディカルサポート



リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックの熱も冷めやらぬ今日この頃ですが、4年後の2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。その翌年、2021年(平成33年)には三重県で三重とこわか国体・全国障害者スポーツ大会が開催されます。この三重国体での優勝を目標に、平成28年に三重女子ラグビーチームPEARLS(パールズ)が設立されました。7人制ラグビーでは男女共にリオデジャネイロ五輪出場を決めるなど、ラグビーが国民的スポーツとして多くの注目を集めるようになりました。オリンピックや国体でも正式種目となり、全国で急速に女子ラグビーの普及強化の取り組みが行われ始めています。

PEARLSは2016年岩手国体の東海地区予選1枠を勝

ち抜き、無事本戦出場を決めました。7人制・15人制ラグビーの元日本代表選手も多く在籍しており、「三重から世界へ」をスローガンに世界で活躍出来るラグビー選手の輩出を活動理念としております。主体会病院はPEARLSとメディカルパートナーの関係を結んでおり、主に医師・理学療法士がオフィシャルドクター・トレーナーとして、公式戦や遠征・合宿に帯同しサポートしており、岩手国体にも理学療法士が帯同しました。今後もPEARLSの活躍から目が離せません。皆様の温かいご声援を宜しくお願い致します。

主体会病院 スポーツ整形外科リハビリテーションチーム
理学療法士主任 南 圭介



ビアガーデン

8月20日(土)



今年はビアガーデンを開店。暑いなかで冷たい飲み物は最高に美味しい！いつもより…飲みすぎちゃったかな。

みえの郷

七夕会

7月6日(水)



子どもたちと一緒に手遊びをしました

毎年恒例の七夕会。幼稚園の子どもたちが歌やダンスを披露してくれました。今年は四日市のマスコット、こにゅうどうくんも来てくれ皆さん大喜び！記念撮影をしました。



夏祭り

8月4日(木)

終わり頃に少し雨が降りましたが…今年も大盛況の夏祭りでした。



ちょうちんに灯がとまり、いい雰囲気です



施設長と一緒に。はいチーズ！



室内で花火待ち…みえの郷は7階なので眺めがよいのです。

平成28年度 民間社会福祉施設職員等 海外研修・調査に参加して

介護老人保健施設みえの郷 支援相談員 岡 あゆみ

9月4日～16日の2週間、上記研修にてデンマーク、スウェーデンの施設等を視察させていただきました。この研修は公益財団法人社会福祉振興・試験センターが毎年実施しているもので、全国より12名の高齢者施設で勤務する方々と共に、ホスピス、老年科病院、認知症グループホーム、介護補助器具センターなど高齢者福祉に関する施設を視察する他、質問を通じてのディスカッションや利用者の方々との交流会も体験させていただきました。

利用者だけでなく従事者にもやさしい仕組みがとられており、皆さんの表情が生き生きとしていたことが印象的でした。国の制度は違えど参考になることも多く、自身の業務に反映させていきたいと感じました。



部署紹介

主体会病院 透析センター

主体会病院透析センターは新館5階にあります。

透析とは腎臓の働きが著しく低下し、体内の余分な水分や老廃物などを、体外に排出できなくなった方に対する治療法で、週3回、4～5時間の治療を必要とします。

透析患者様の高齢化や長期透析に伴う難治合併症など多種多様の病状に対し、最新機器の導入やリハビリとの協力で日常生活動作向上を目的とした透析中の運動療法、管理栄養士からの食事指導など、他部署と連携することにより患者様の生活の質向上に努めています。

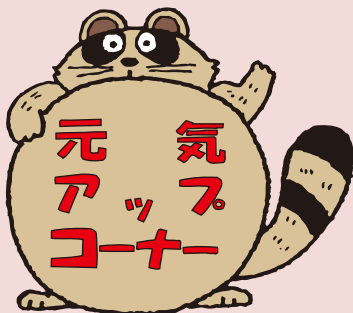
また、社会復帰支援のための夜間透析も行っており、県内でも有数の透析施設です。

現在、入院外来合わせて177名の透析患者様を、川村直人院長を中心に看護師16名、臨床工学技士16名、介護助手1名、医療ソーシャルワーカー1名の



スタッフで治療に当たっています。患者様により良い環境での透析を提供できよう、スタッフ一同協力して日々仕事に励んでいます。

主体会病院 臨床工学技士 阪田修平



健康教室

主体会病院では医師、看護部、薬剤部、栄養部、リハビリが協力し、2ヶ月に一度患者様対象に「健康教室」を開催しています。今回の健

康教室は、昨今急速に増加している、うつ病をテーマにしまし

た。うつ病は気分障害だけでなく、不眠、食欲低下、胃腸障害、頭痛、めまいなど身体症状もあわせてあらわれることがほとんどで、さまざまな苦痛を生じます。今回、看護部として「うつ病を予防する生活」と題して食生活を中心により良い生活習慣についての紹介をさせて頂きました。患者様ひとりひとりが毎日を健やかに過ごし、より輝いて生きる手助けとなればという思いで今後も支援していきたいと思っています。毎回さまざまなテーマで、わかりやすく健康についてのお話をしています（隔月の第3木曜日10時～）ので興味のある方はぜひご参加ください。

主体会病院看護部 健康教室委員会委員長 石田智恵子



編集後記



今年は猛暑の夏が終わったかと思えば、台風続きの秋の始まりでした。

台風の通過が多く、被害を受けやすい地域を「台風銀座」というそうです。人が行き交い賑わう場所を「銀座通り」といいますが、人を台風に置き換えた表現で沖縄・九州・四国地方から近畿地方南部をさすようです。今年のように台風が多いとあまり嬉しくない表現ですが…

早く穏やかな秋晴れの日が来て、心地よい季節を楽しみたいものですね。

(介護老人保健施設みえの郷 支援相談員 岡あゆみ)